

# 奥陰田遺跡群

## — 調査概要 —

1994. 3

財団法人 米子市教育文化事業団







# 1. 位置と環境



奥陰田地区より遥か中海を臨む

## 調査地の位置と周辺遺跡

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. 陰田サキノタニ遺跡 | 12. 四日市遺跡  |
| 2. 口陰田遺跡     | 13. 米子城跡   |
| 3. 陰田遺跡      | 14. 目久美遺跡  |
| 4. 陰田一号墳     | 15. 池ノ内遺跡  |
| 5. 新山・萱原遺跡   | 16. 観音寺古墳群 |
| 6. 新山要害山     | 17. 大 山横穴  |
| 7. 四方神古墳     | 18. 東宗像遺跡  |
| 8. 穴神さん横穴    | 19. 宗像古墳群  |
| 9. 山ノ神古墳     | 20. 福市遺跡   |
| 10. 神代塚古墳    | 21. 青木遺跡   |
| 11. 高畑窯跡     |            |

- 遺跡
- ◐ 前方後円墳
- 横穴

本書は、鳥取県の実施する一般国道180号道路改良工事（米子バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。

調査は平成元年度から米子市新山、陰田両地内で実施してきている。今回は平成3年度から5年度にかけて調査した陰田宮の谷遺跡・広畑遺跡・ハタケ谷遺跡を対象とした。

調査概報は、これまでに『新山山田古墳群・山田遺跡・研石山遺跡』、『陰田夜坂谷遺跡・隠れ家谷遺跡』、『新山遺跡群・奥陰田遺跡群』の3冊を刊行しており、第4冊目となる。



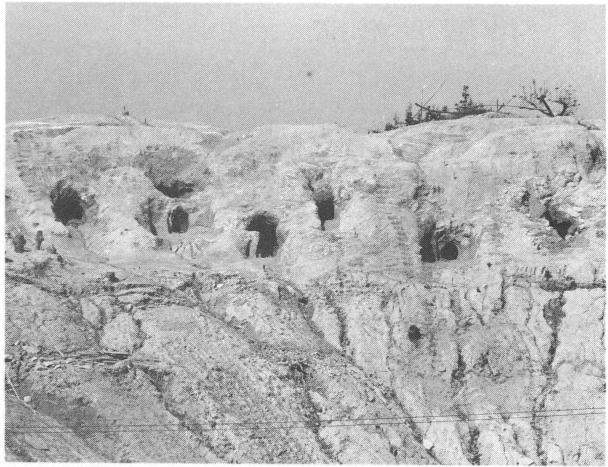
## 2. 周辺の遺跡

奥陰田遺跡群のある米子市陰田町は県境に位置し、周辺地域との交流の境でもあり、各時代・各種の遺跡が濃密に分布している。

その中でも特徴的な遺跡をここに幾つか挙げてみた。



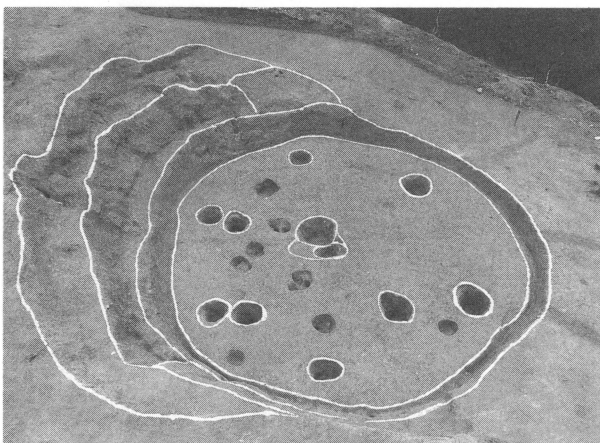
隠れが谷遺跡（上空より）



陰田横穴群（現在は国道9号米子バイパス）



陰田遺跡・弥生時代の段状遺構  
（国道9号米子バイパス）

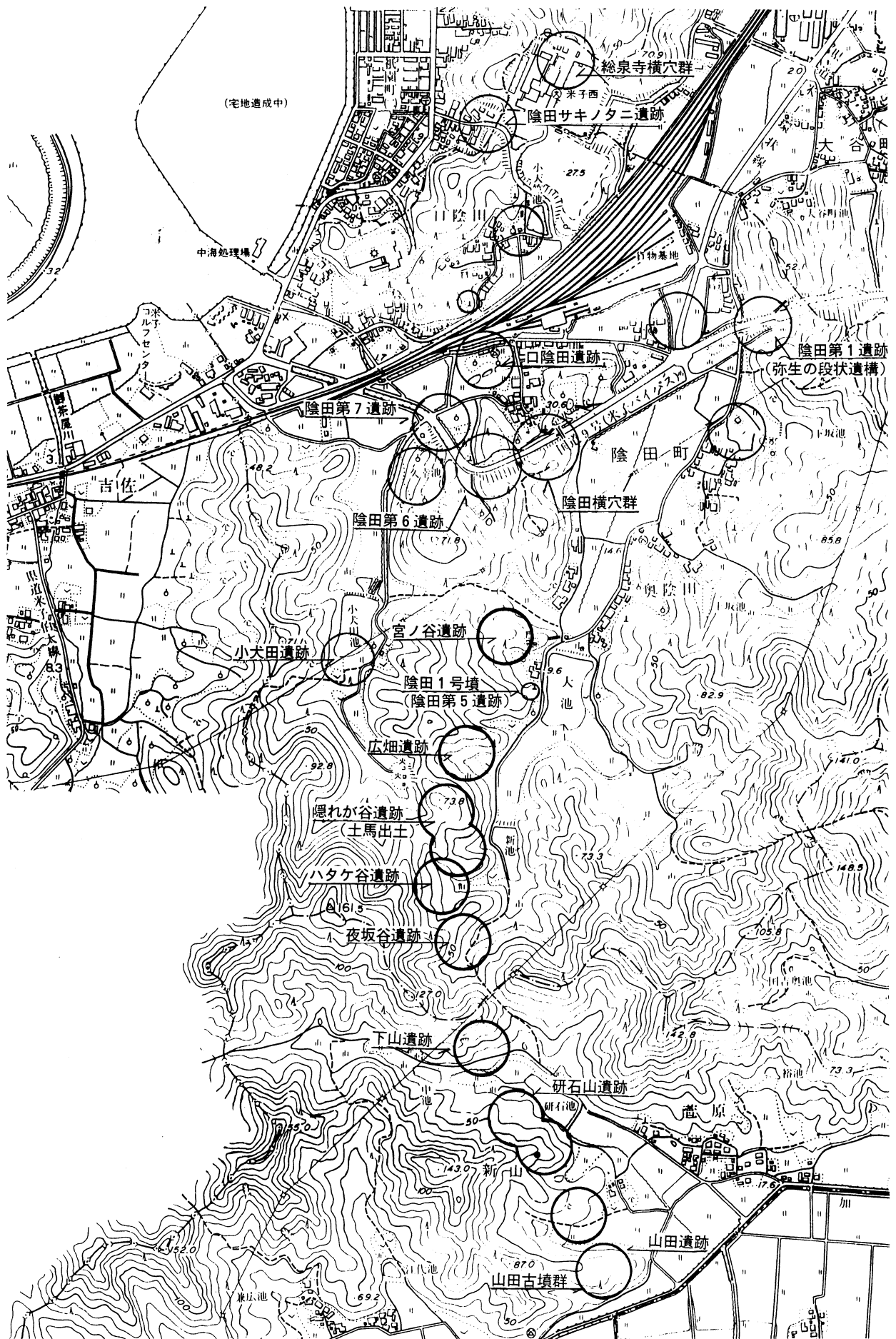


夜坂谷遺跡・竪穴住居跡  
（弥生時代末～古墳時代初頭）



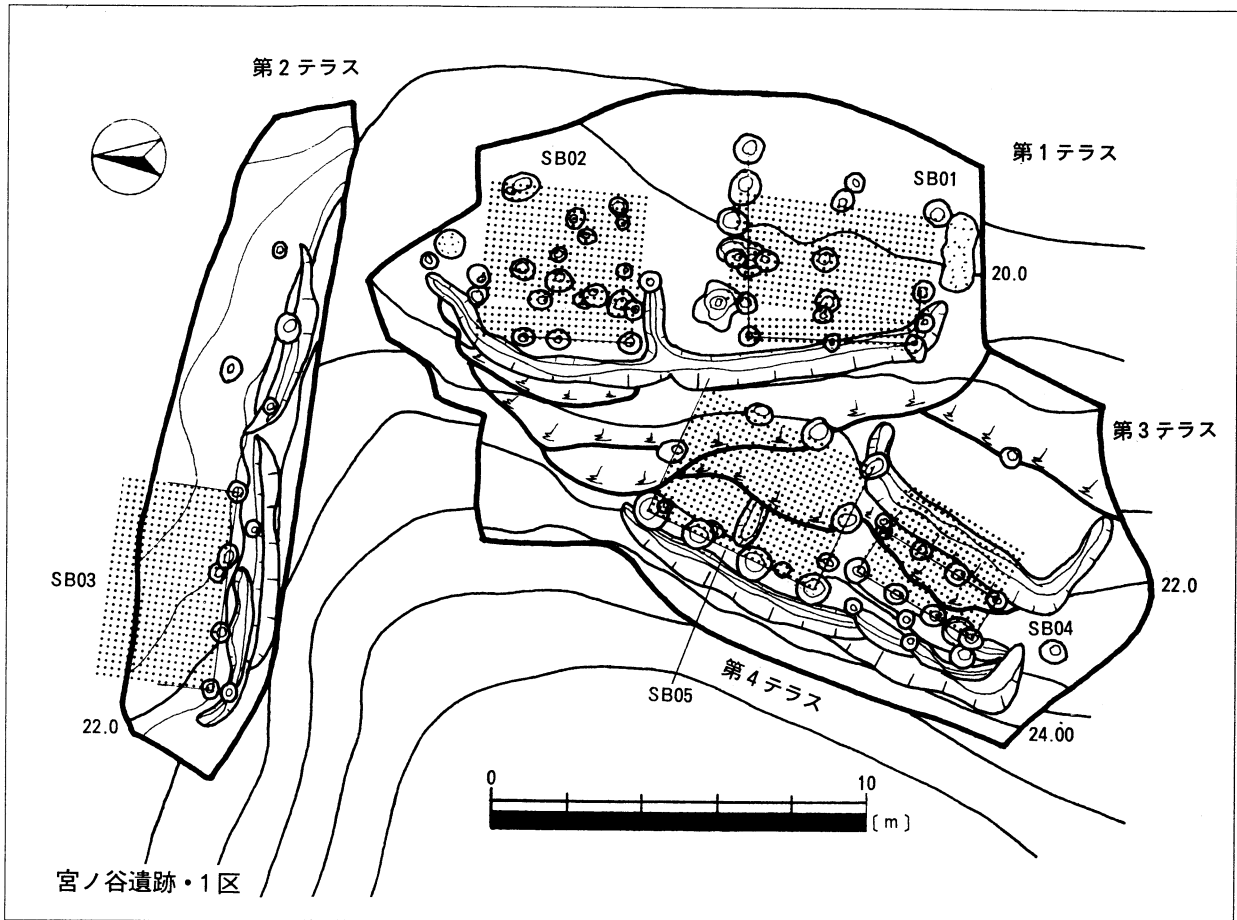
土馬（隠れが谷遺跡出土）







### 3. 宮ノ谷遺跡



**1区** 奥陰田部落の犬田神社裏の谷内に突出する小尾根突端部に位置する。宮の谷遺跡2区は谷をはさんで北側約30mにあたる。

調査の結果、標高は約20～23mの突端部の東側斜面、北側斜面において合計4つのテラスを確認し、掘立柱建物10棟、溝状遺構を検出した。

各テラスの遺構は、大小2棟の建物を1単位として構成、それぞれが建替えられている。東側斜面部では、斜面を3段に整地加工して建物を建てている。

1テラスの建物の規模は、明確に特定できないが大小の建物SB-01群とSB-02群で構成されている。

3テラスは、幅約28～32cm、深さ約1～6cmのコの字状に巡る溝状遺構を検出した。柱穴等は検出できなかった。

4テラスは2間×3間を主体とし、柱穴が他と比較しても大きいことが特徴である。

SB-05は2間×3間で、梁行3.60m桁行5.0

mの建物である。土師質の土馬を出土し、また建物中央には、溝も検出している。同じテラス上に並ぶSB-04は、同様に2間×3間で、梁行推定2.5m、桁行3.7mの総柱建物と思われる。

土馬が東向きのテラスにおいて、また総柱建物にも関連する位置で出土している点など、隠れヶ谷遺跡の土馬の出土状況に共通している。

北側斜面の第2テラスでは、SB-07群を検出した。これは、宮の谷遺跡2区と対面する位置にある。東西方向に4つの柱穴が並び桁行長5.3mを測る。下部の柱穴は、流失のため不明である。

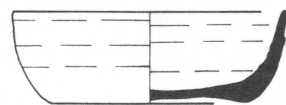
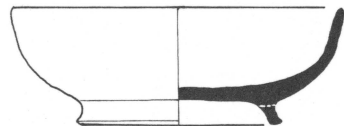
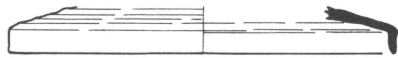
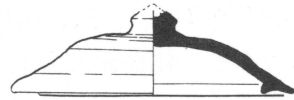
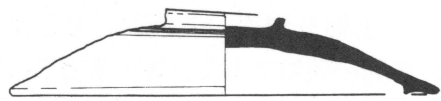
いずれのテラスにおいても、建物後方壁側には、U字状の溝が掘り込まれている。

遺物は、須恵器、土師器、土馬などで、飛鳥、奈良時代を主体とする遺跡である。





宮の谷遺跡（上空より、全景）



宮ノ谷遺跡出土 須恵器 蓋・杯





**2区** 犬田神社裏の東に伸びる丘陵地に位置する。試掘調査で、南側斜面部のみにおいて遺構を確認した。

調査の結果、標高約29~30mで掘立柱建物跡10、溝状遺構、焼土壌を検出した。建物の形態は、斜面を段状に加工整地して平坦面を造った後、その平坦面に柱穴を掘り込むということによって一致している。またそれぞれ建物後方の壁側には、U字状に掘り込む溝状遺構を検出し、施設の一部と考えられる。掘立柱建物群は、位置、規模により3つのグループに分類できる。

第1群 SB-01, 02, 03

第2群 SB-04, 05, 06, 07

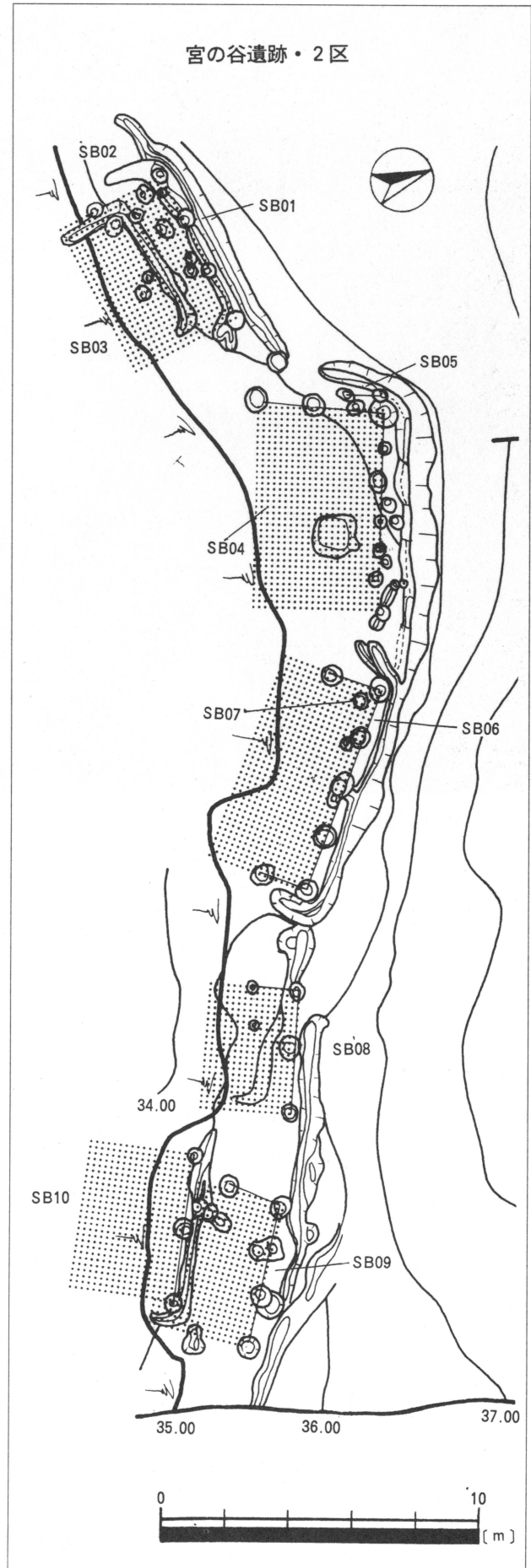
第3群 SB-08, 09, 10

第1群は、主軸を東-西にとり、第2、3群と比較しても建物の規模が小さい。

第2、3群は、主軸は南東-北西、柱穴、及び建物の規模も大きい。特に第2群では建物内の施設と思われる焼土壌も検出している。

遺物は、取り上げ点数にして約110点。須恵器、土師器、鉄滓などである。他の陰田遺跡群において比較しても非常に少ないことが目立つ。時期は飛鳥、奈良時代を主体とするものである。

**SB-04** 主軸を南東-北西にとり、梁行2間、桁行3間の建物である。南北妻通長4m、東西桁行長6.3m。床面積25.2m。床面標高約29.1m。これら建物群で、柱穴、建物規模が一番大きいものである。建物後方の壁側には、建物をコの字状に巡る幅24~40cm、深さ2~6cmの溝が掘り込まれている。内部施設と思われる焼土壌は、1.4×1.3mの方形で、深さ約25cmをはかる。

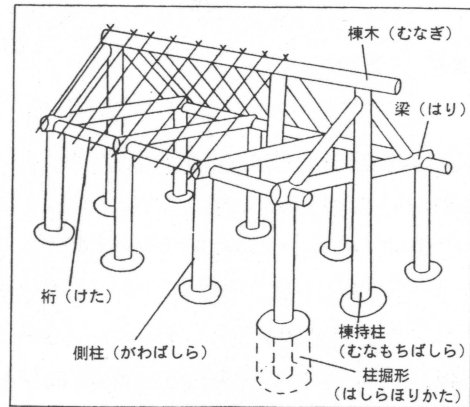






宮の谷遺跡・2区

(斜面をL字に加工・整地し、建物を建てている)



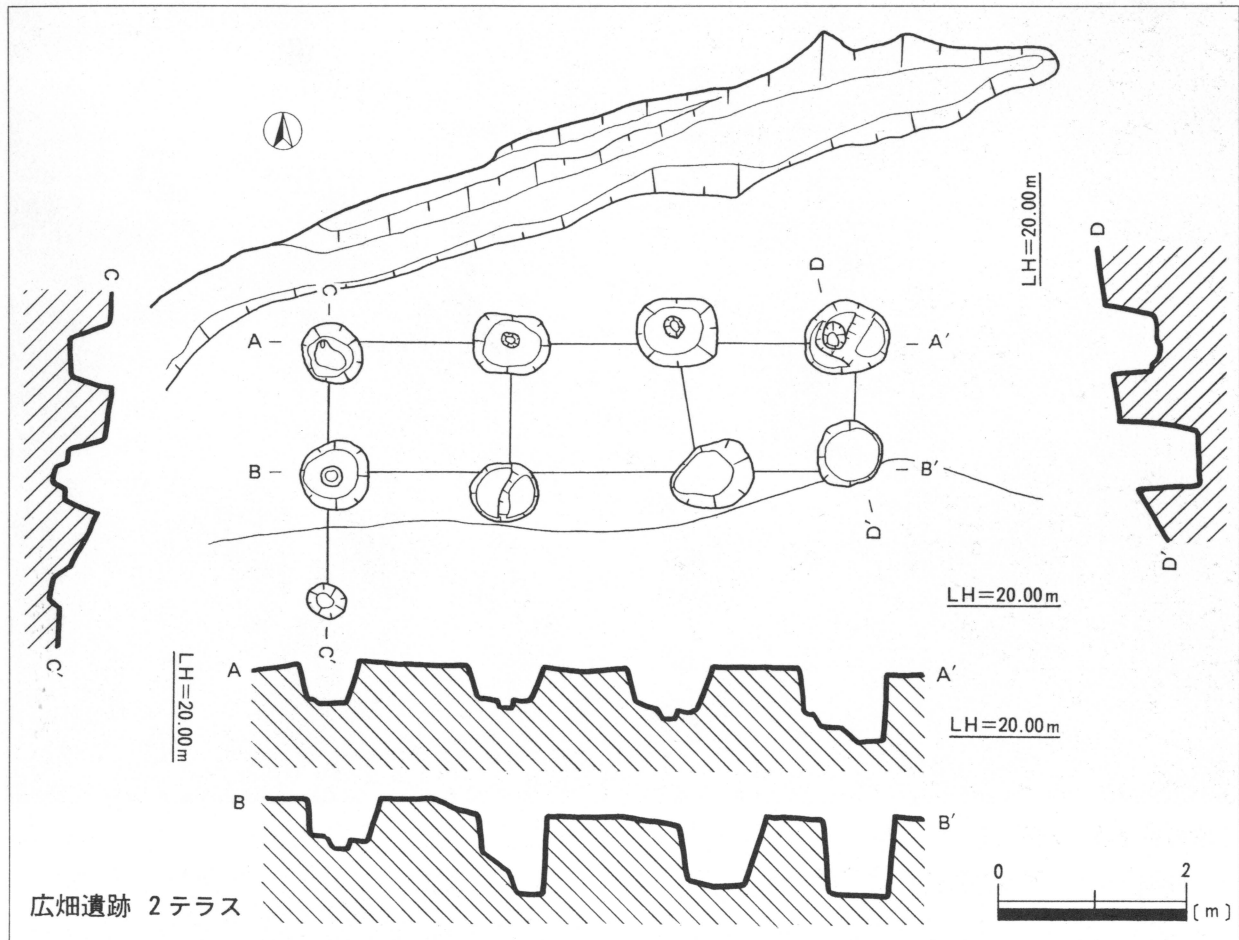
ほったてばしら  
掘立柱建物の構造



須恵器・高坏出土状況



## 4. 広畑遺跡



奥陰田字広畑の東側の丘陵地に位置する。今回は南側斜面の裾部分（標高26m以下）と谷部において調査を行った。約半分は畑地による削平を受け、谷部は土器の散布以外、遺構は確認されなかった。南側斜面部において5つのテラスを確認し、柱穴や溝状を検出、明確な建物跡として確認できたのは2テラスのみで、他のテラスに関しては考察中である。

2テラス（標高約21m）では東西に主軸をとり、梁行2間×桁行3間、南北梁行長2.6m、東西桁行長5.7mの掘立柱建物跡を検出した。P1-P2-P3の柱穴間距離は1.3m、P3-P4-P5-P6もそれぞれ1.9mを測り、規則性がみられる。建物の形態は山の斜面を段状に整地した後に建物而建て、壁側にはU字状の溝が掘り込んでいる。床面には炭、焼土の分布も見られた。

遺物は須恵器、土師器、竈、また土製支脚や鉄滓が多いことが特徴的である。2テラスにお

いてかなり遺物の出土が見られ、堆積の仕方、遺構との関連状況から見て、上部からの流れ込みが大半だと思われる。鉄滓のなかには精錬鍛冶滓も含まれることから、鍛冶関連遺跡と考えられる。時期は6C末～7C初にはじまり、9C代まで続く。奥陰田遺跡群の中では初現的かつ、中心的な遺跡といえる。



土製支脚出土状況（2テラス土器溜り）



2テラス・土器溜り

(壁際から多量の土器が出土。上部からの流れ込みか?)



須恵器・高坏出土状況 (土器溜り中)

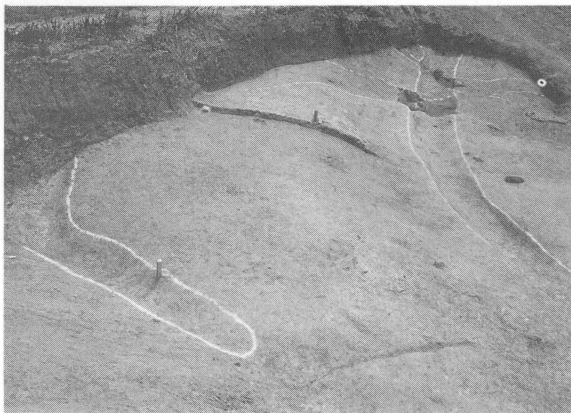


竈出土状況 (土器溜り中)





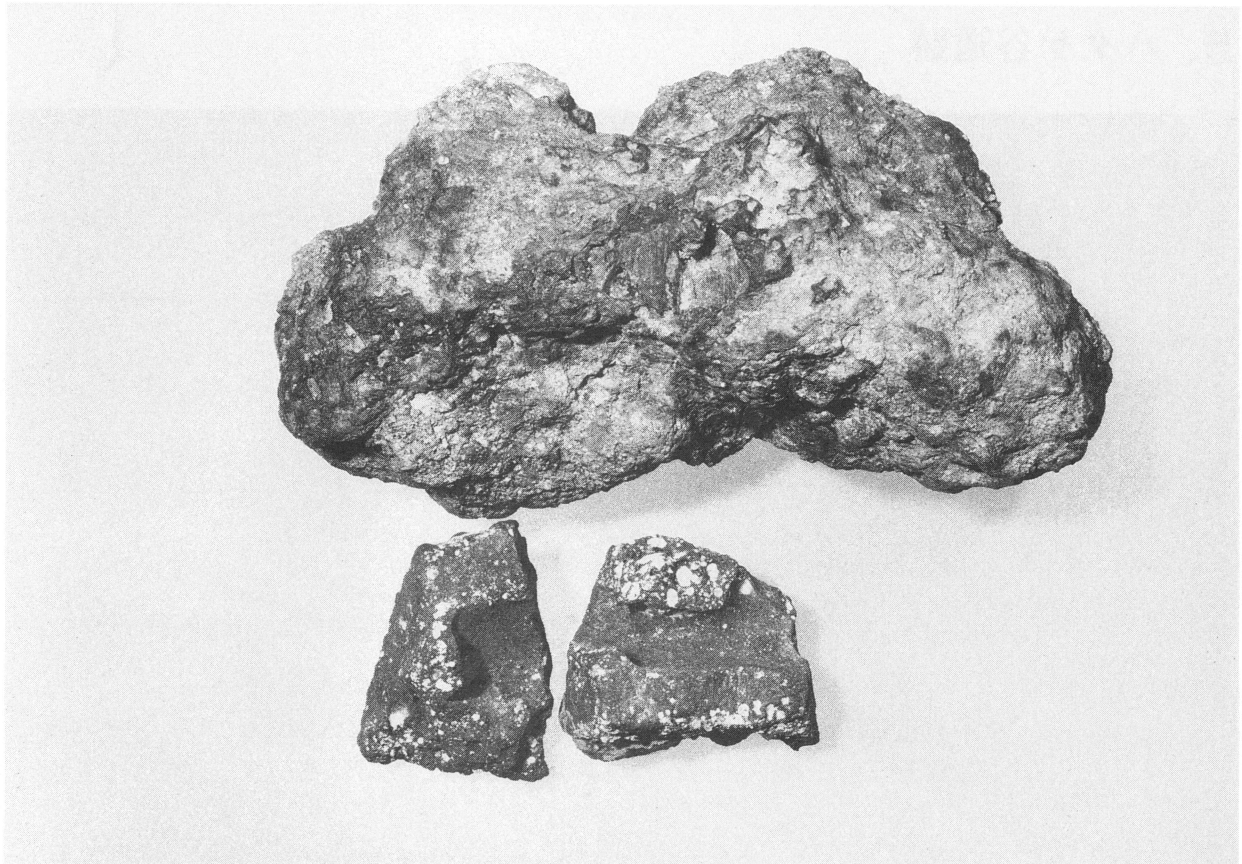
4・5テラスで上部からの溝を検出、中から土製支脚や鉄滓、耳輪等が出土した



縦の溝に直行するように横にのびる溝を検出

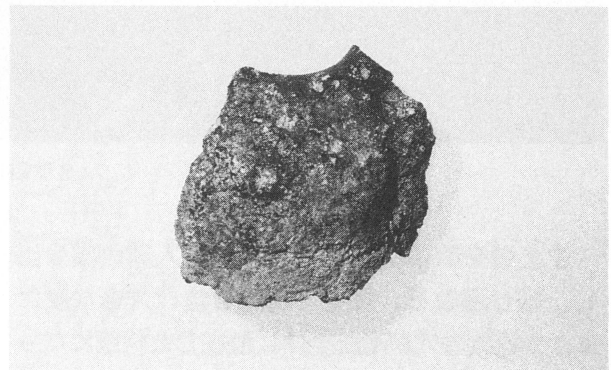


4・5テラス作業風景

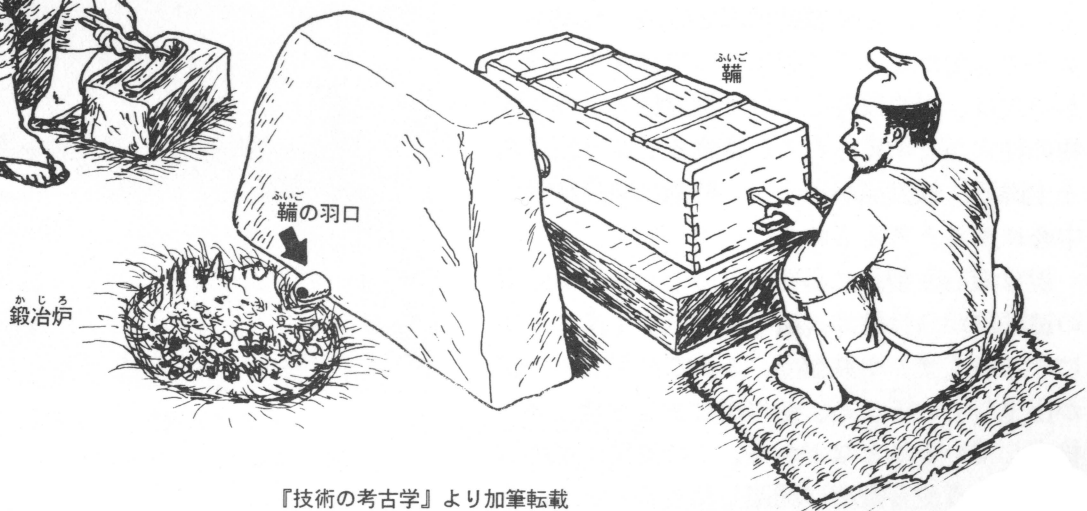


広畑遺跡出土の鉄滓  
 (下が製錬滓、上が鍛錬鍛冶滓)

鍛冶風景想像図



広畑遺跡出土の羽口



『技術の考古学』より加筆転載



## 5. ハタケ谷遺跡



ハタケ谷遺跡・全景

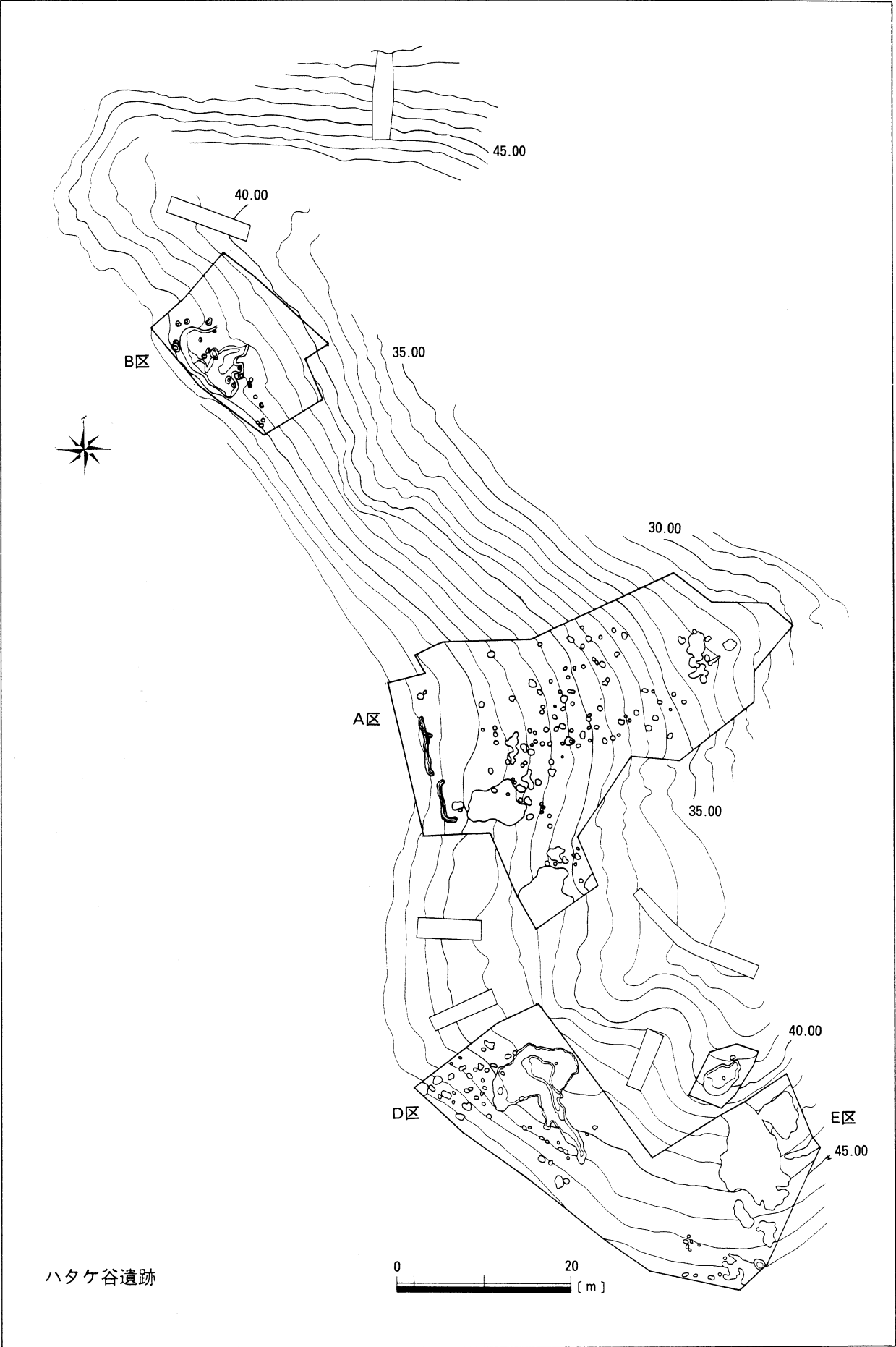
表土層を取るとすぐに、炭の混入層が顔を出し、掘り進むと、焼土や炭片を含む大きな炭だまりや無数の穴が遺跡全体に散在した状態になった。中でも谷部や南側の斜面で焼土を多量に含むくぼみを検出し、そこでは材木状の木炭も出土。どうやら、この遺跡は炭を貯蔵した場所のようで、炭だまりの周辺に伴って存在する幾つかの穴は、炭を保存していた掘立柱のような建物の柱穴かと考えられる。遺物としては須恵器と土師器、鉄製品が出土し、時期は奈良時代が中心になると考えられる。

炭は鍛冶や製鉄に必要なもので、また奥陰田の遺跡群からは鉄滓（鍛冶や製鉄の生産の途中にでる鉄くず）や鉄製品、ふいごの羽口の一部が出土していること、他に炭だまりや焼土跡が検出していることなどから、この奥陰田遺跡群全体はどうか鍛冶に関連したものらしく、そ

の中でハタケ谷遺跡は、周辺の遺跡に炭を供給、また、貯蔵する役割を果たしていたようである。



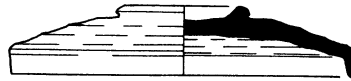
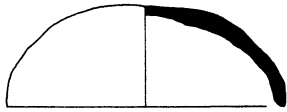
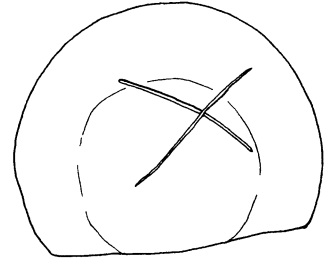
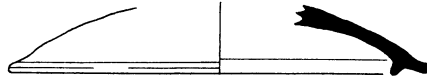
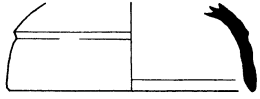
ハタケ谷遺跡・D区炭溜り  
(黒く堆積しているのが炭の混入する層)





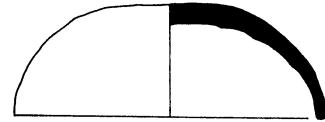
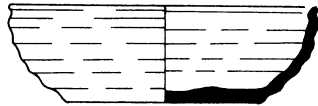
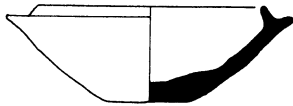
# 6. 遺物

## • 須恵器

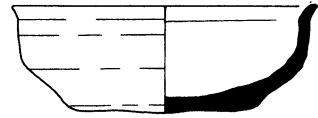
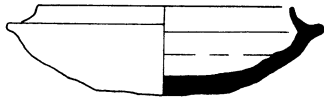


蓋

蓋

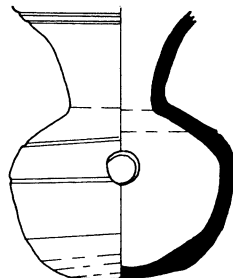
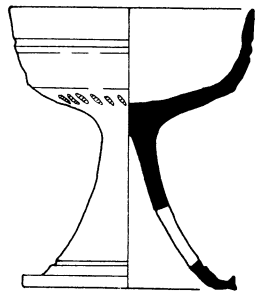


蓋



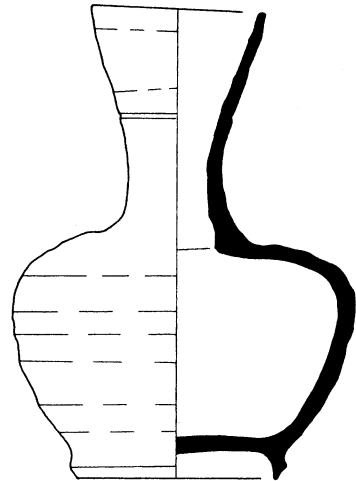
坏

坏



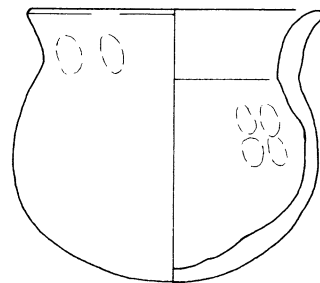
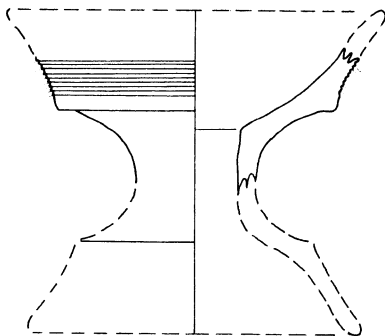
高坏

罍



壺

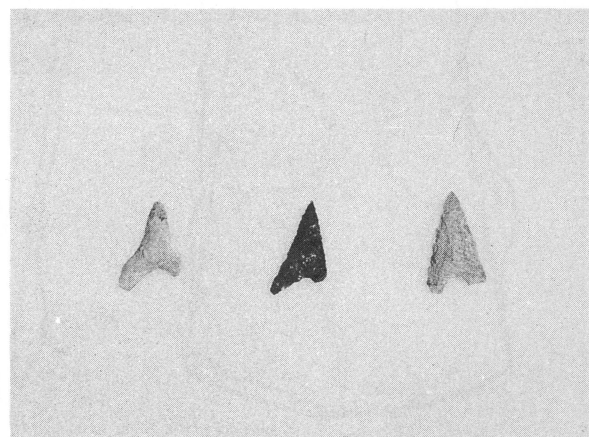
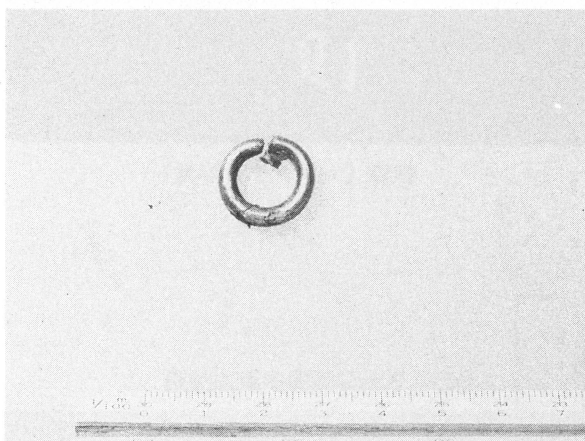
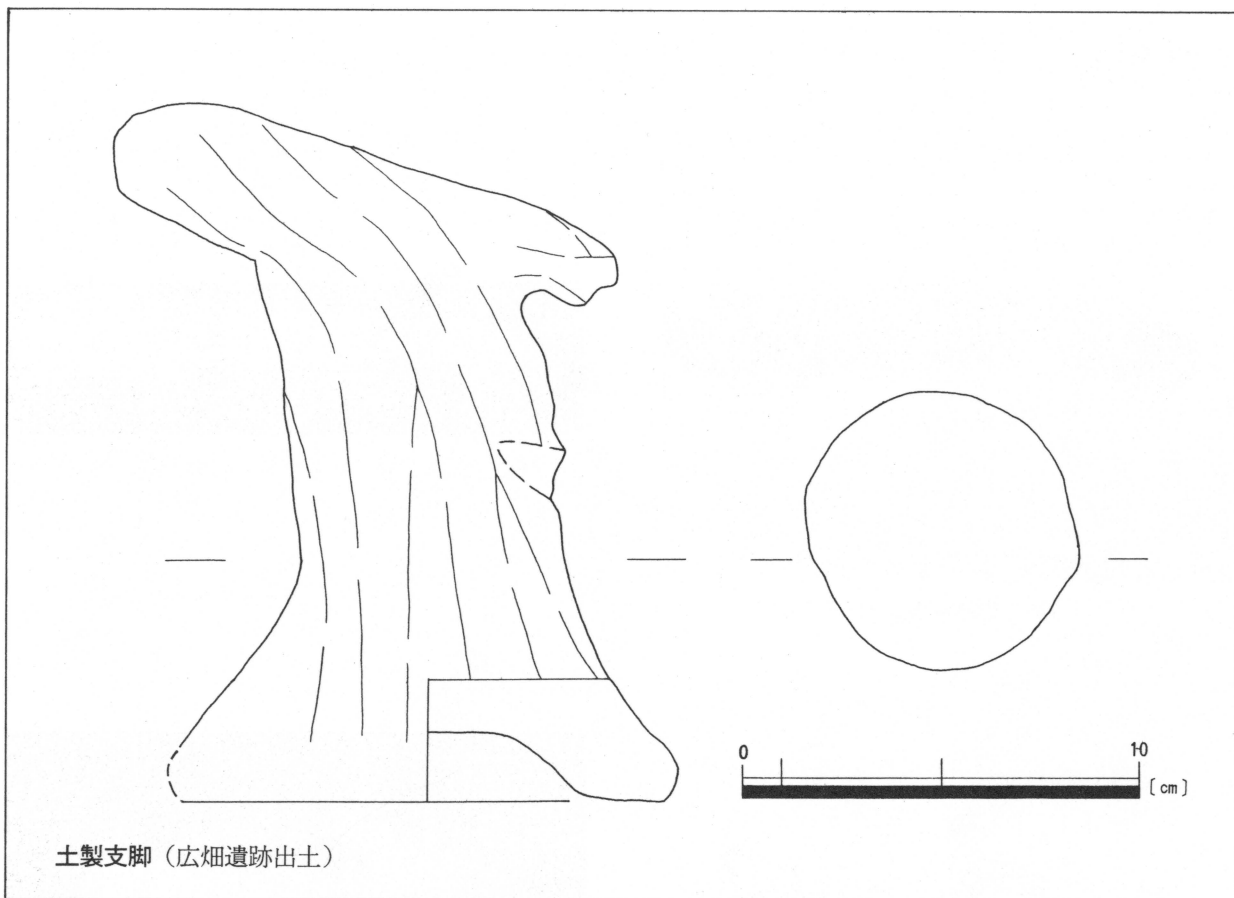
## • 土師器



鼓形器台

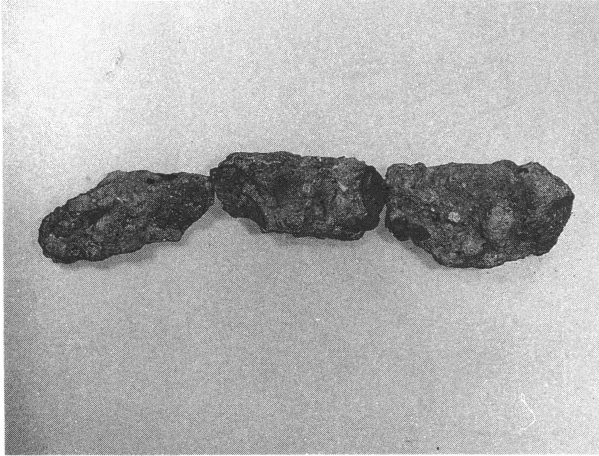
壺



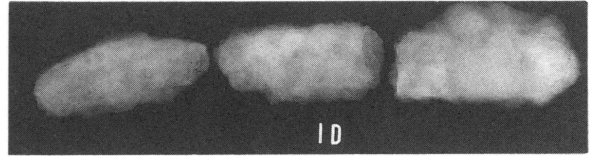




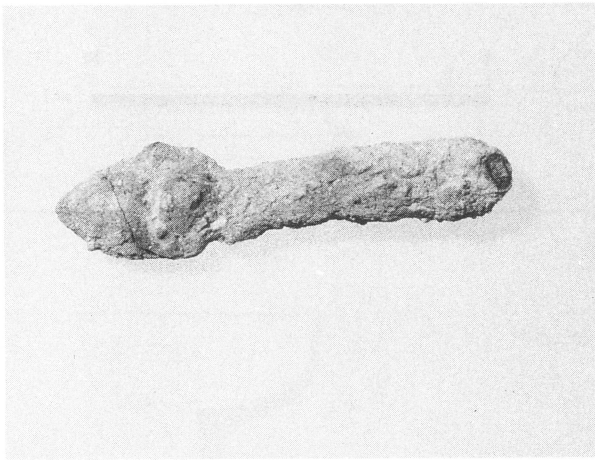
# 鉄製品



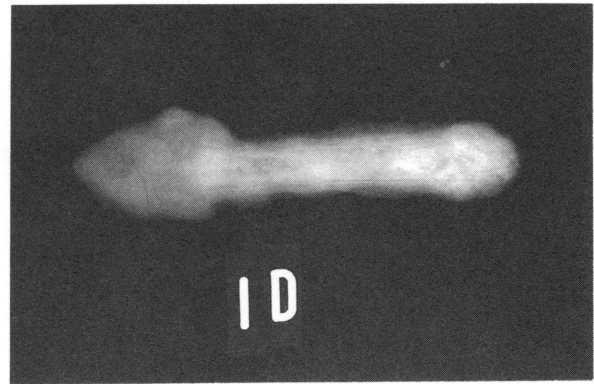
鎌 (広畑遺跡出土・実写)



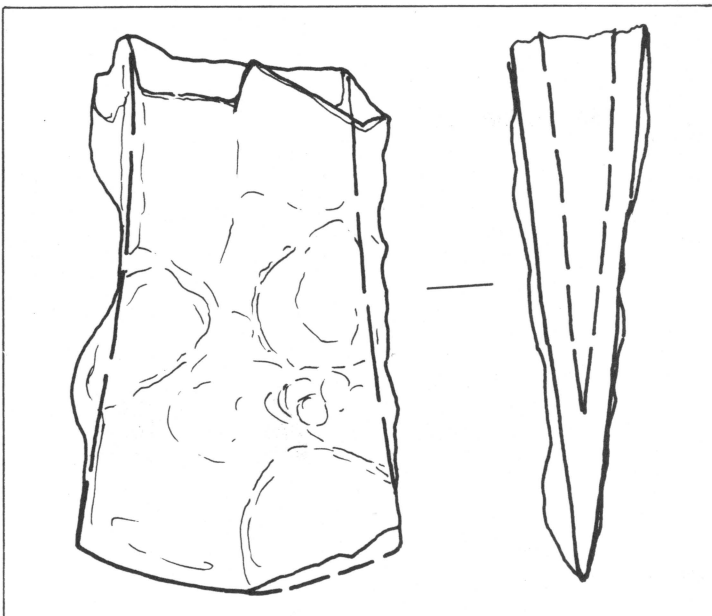
鎌 (レントゲン写真)



鉄鏃 (広畑遺跡出土・実写)



鉄鏃 (レントゲン写真)



鉄製品・斧 (ハタケ谷遺跡出土) 実測図

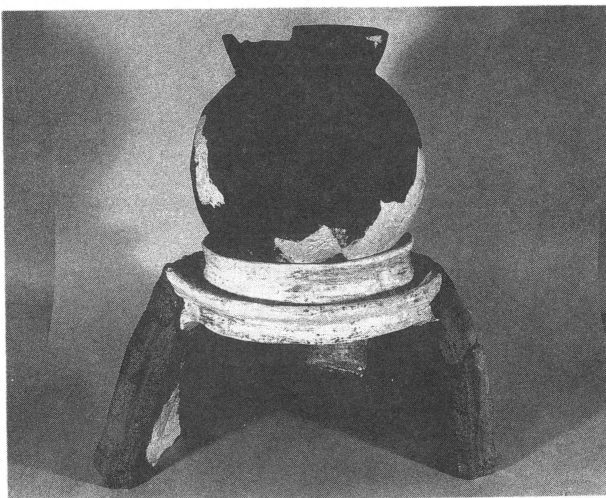


移動式竈（広畑遺跡出土）

## 竈

かまどは、昔はどここの家庭でもみられたもので、広畑遺跡で出土したものは古代のものであるが、形はどこか良く似ているように思う。かまどというのは古代から大変重要なもので、実際煮炊きに使用する以外にも信仰の対象にもなっていた。沢山のかまどからたちのぼる煙をみると、活気に満ちているように感じるのは今も昔も変わらないのだろうか。

移動式竈の使用の仕方（想像）





## 7. 調査遺跡と鉄

奥陰田遺跡群は、「祭祀」と「鉄生産の関連」の2つが特徴である。

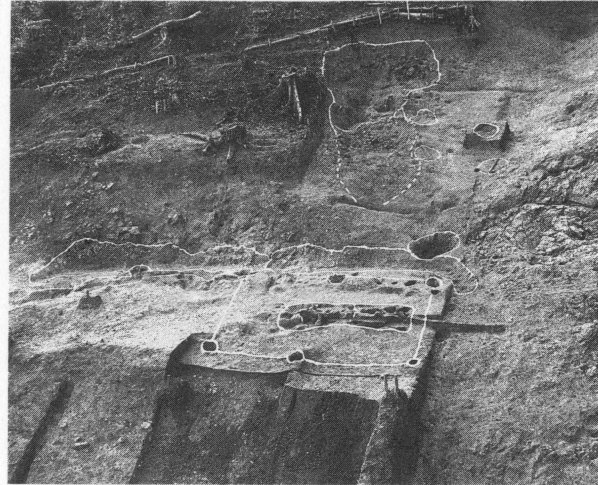
「祭祀」的面では土馬がまず筆頭に挙げられ、ここでは隠れが谷遺跡、宮の谷遺跡のそれぞれ東向きの尾根部から炭、焼土溜りとともに出土し、前者では雌雄1対の状態での出土もみられる。隠れが谷遺跡からは手づくね土器（焼土坑内）の出土もあった。

「鉄生産の関連」という面では、遺跡群全体に炭、焼土溜りの分布がみえ、また炉状の遺構も検出した。遺物では鉄製品や鉄滓、鞆の羽口、炉壁片が出土している。

これら2つの特徴的要素は、掘立柱建物跡や、その近辺からの出土、検出が多く、このことから、ここでの掘立柱建物は住居という利用とは別に、祭祀的利用や貯蔵施設、鉄生産関係の工房としての利用も考えられる。

また、ここから出土した鉄滓には精煉鍛冶滓

と鍛錬鍛冶滓の2種類があり、前者は青黒色、後者は赤褐色で木炭の付着した痕跡がみられる。両方とも鍛冶炉の底から生成されるもののように、このことから鉄生産、特に鍛冶に関する遺跡である可能性が高いと思われる。

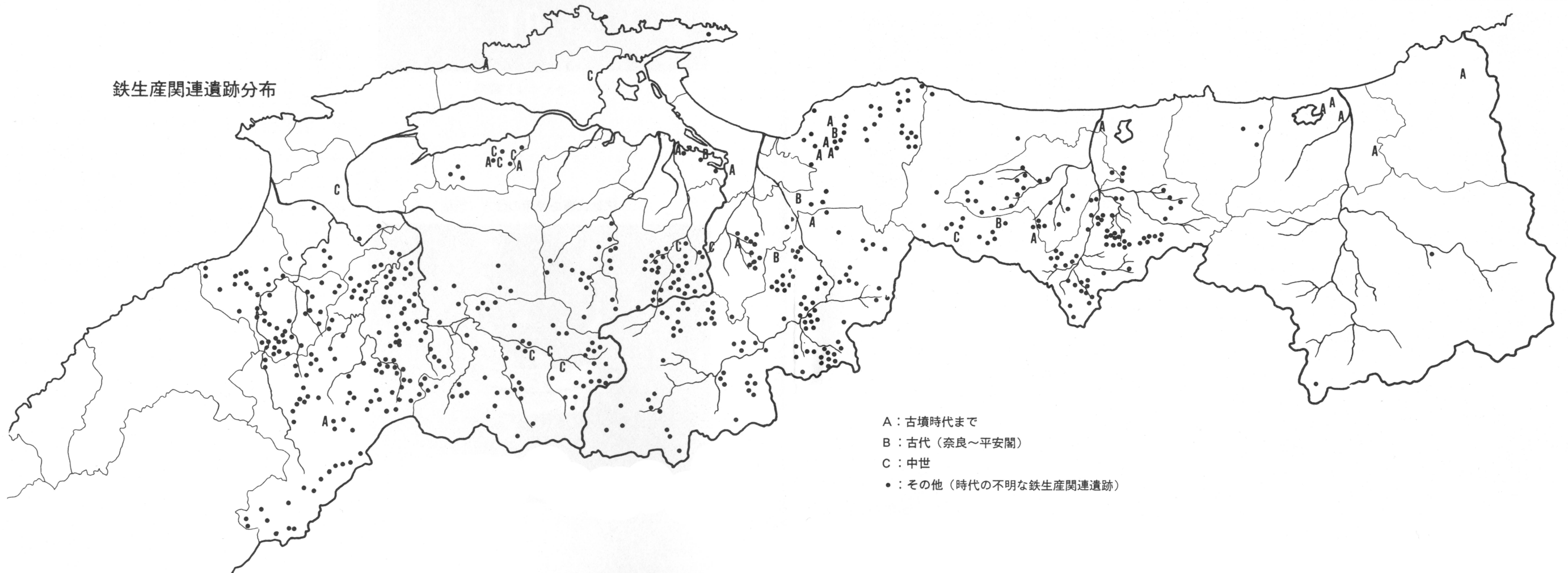


鍛冶関連遺構（新山・山田遺跡5区第2テラス）

調査遺跡と鉄関係表

遺跡名	鉄滓	鉄製品他	炭溜り	建物（掘立柱等）	時期		
					飛鳥	奈良	平安
山田 5区	◎(29)	◎(鏡)		◎(1、鍛冶跡)	●	●	
1区						●	
2~4区				◎(2)		●	
研石山 1区	○	◎		◎(6)	●	●	
2~3区						●	
4区			◎			●	
5区	○	◎(斧、釘、紡錘車、鞆の羽口等)		◎(6)	●	●	
下山	◎(87)	◎(斧、鏡、刀子等)		◎		●	
夜坂谷	○	◎(7)	◎			●	
ハタケ谷		◎(斧等)	◎			●	
隠れが谷	◎(28)	◎(9)	◎	◎(28)	●	●	
広畑	◎	◎(鞆の羽口、炉壁等)		◎(3)	●	●	
宮の谷	○	◎		◎(20)	●	●	

鉄生産関連遺跡分布



- A：古墳時代まで
- B：古代（奈良～平安間）
- C：中世
- ：その他（時代の不明な鉄生産関連遺跡）

## 8. 調査の風景



1	2	① 地形測量
3	4	②・④ 遺跡の発掘
5	6	⑤・⑥ 遺跡説明会
7		⑦ 体験学習



遺跡分類表

遺跡名	竪穴 住居	掘立柱建物 (総柱建物)	土坑	古墳	横穴	溝	段	その他	縄文	弥生		古墳		奈良平安時代			備考		
										前	中後	前	後(飛鳥)	(白鳳)					
山田古墳群				6	1			小墳丘2 古墓2										円墳、横穴 珠文鏡 古式須恵器	
谷ノ上古墳群				1														1基のみ ハニワ 須恵器	
研石山古墳群				1				石蓋木棺 小石棺										剣	
山田遺跡	19	3	55	1		12	4	神社跡1 古代流路 土器溜り										分銅形土製品 古式須恵器 竈	
	2~4区	18	2	40	1		2	神社跡1											
	5区	1	1	10			2	散布地											
研石山遺跡	20	13	25	8		10	5												竈
	1区		6	6*		6	3	縄文陥穴2											
	2区	1	1	3*			2	縄文陥穴2 貯蔵穴1											
	3区				7*			古墳 1 小石棺2 石蓋土坑4											
	4区			1*				炭溜り											古式須恵器 竈 子持勾玉
5区	19	6(1)	15	1*		4	小石棺1 縄文陥穴8 谷3												
下山遺跡		○	○			○	○												
	1区																		
2区																			
夜坂谷遺跡	1							が状遺構 炭溜り											煙管
ハタケ谷遺跡		○	○			3		炭溜り											斧 ゲンノウ
隠れが谷遺跡	7	29	32			1	3	炭溜り											土馬、竈
	1区	2	6(1)	7		1	1	炭溜り											
	2区	5	20(2)	23			2	焼土坑、 炭溜り											
3区		3	2				焼土坑、 炭溜り												
広畑遺跡		3(1)				2		調査中											竈
岩屋谷遺跡								炭溜り											
宮の谷遺跡	1	20(1)	1					焼土坑											土馬 土製支脚
	1区		10(1)																
	2区	1	10	1				焼土坑											

遺構 遺物散布

- \* 縄文時代：早期押型文土器、晩期土器、石器。土坑（陥穴等）。
- \* 弥生時代：前期～後期土器。遺構は中期後半から。
- \* 1次集落形成：弥生中期後半から古墳中期（後期初頭）まで、新山・山田遺跡中心。
- \* 2次集落形成：古墳後期後半（飛鳥）から平安初頭まで、陰田・隠れが谷、広畑遺跡中心
- \* 鉄関係遺跡は奈良時代後半に増加する傾向が見られる。
- \* 特徴的な遺物：分銅形土製品、珠文鏡、子持勾玉、古式須恵器、竈、土馬、鉄滓・鉄製品